

平成 16 年度事業報告

平成 16 年 4 月 1 日から

平成 17 年 3 月 31 日まで

社団法人 日韓経済協会

目 次

I. 総 会	-----	1
II. 理事会	-----	6
III. 政策委員会	-----	8
IV. 日韓・韓日経済人会議		
A. 第 36 回日韓・韓日経済人会議	-----	9
B. 専門委員会		
第 6 回日韓・韓日産業貿易会議	-----	15
V. その他の主要事業活動		
A. 調査広報活動	-----	17
B. ミッションの受入れ派遣及びその協力	-----	20
C. 特別事業（青少年交流事業）	-----	21
VI. その他事業及び出来事等	-----	23
VII. 会員異動	-----	28

I. 総 会

A. 第20回通常会員総会

第20回通常会員総会は平成16年6月2日東京都千代田区大手町1-9-4経団連会館902号室で開催された。定款規定により瀬戸雄三会長を議長に選出した後、下記議案が審議の結果満場一致で原案どおり可決承認された。

1. 日 時 平成16年6月2日(水)
開 会 午後2時00分
閉 会 午後3時20分

2. 場 所 東京都千代田区大手町1-9-4
経団連会館 902号室

3. 正 会 員 総 数 92名

4. 出席正会員社数 78名
(内 訳)
出席した正会員社 22名
委 任 状 56名

5. 議案の審議及び議決結果

第1号議案 平成15年度事業報告承認の件

下出常務理事が平成15年度事業報告に基づき、平成15年度に開催した、総会・理事会の審議事項及び協会の主要事業等について実施内容とその成果を説明、議長がこれを議場に諮ったところ全員異議なく承認された。

第2号議案 平成15年度収支決算報告承認の件

御巫専務理事が平成15年度収支決算報告に基づき、収支決算書の収入及び支出については、予算額と決算額との差異発生項目につきその要因を説明し、収支差額23,171,767円は平成16年度に全額繰越す旨説明、また、正味財産については、当期増加額5,323,012円であり、期末正味財産合計額は81,629,184円となった旨説明、

なお、本収支決算書は長澤栄一郎公認会計士ならびに西川・高梨両監事の監査を受け「適正に処理されている」旨の監査報告書を頂戴していることを伝え、議長が同議案を議場に諮ったところ全員異議なく承認された。

第3号議案 平成16年度事業計画（案）審議の件

御巫専務理事が、平成16年度事業計画（案）に基づき、本年度の事業計画案について説明し、また、特別事業の大学生交流事業は本年度をもって最終とすることを付言した。議長がこれを議場に諮ったところ全員異議なく承認された。

第4号議案 平成16年度収支予算（案）審議の件

御巫専務理事が、平成16年度収支予算（案）に基づき、収入及び支出の主たる予算項目につき、その増減要因を説明、さらに本年度は大学生交流事業と高校生交流事業が重なるため、例年以上に費用が増高し、経済人会議の日本開催と相まって、特定預金取崩を予定している旨を併せ説明し、議長がこれを議場に諮ったところ全員異議なく承認された。

第5号議案 理事・監事選任承認の件

御巫専務理事が、理事・監事選任承認の件に基づき、平成15年8月5日開催の平成15年度第2回理事会にて承認された理事2氏及び平成15年11月26日開催の平成15年度第3回理事会にて承認された理事1氏並びに平成16年3月29日開催の平成15年度第4回理事会にて承認された監事1氏を本総会にて追認する旨説明、議長がこれを議場に諮ったところ全員異議なく承認された。

なお、新任理事・監事及び退任理事・監事は次の通り。

(敬称略)

I. 新任理事

米谷 雅彦 (株式会社ホテルオークラ東京代表取締役社長)
遠藤 一郎 (日鉱金属株式会社顧問)
松本 明久 (伊藤忠商事株式会社執行役員)

II. 新任監事

高梨 圭介 (社団法人日本貿易会専務理事)

III. 退任理事

佐藤 晃一 (株式会社ホテルオークラ社友)
坂本 卓 (新日鉱ホールディングス株式会社相談役)
高梨 圭介 (社団法人日本貿易会専務理事)
武田 豊 (新日本製鐵株式会社社友) [ご逝去]

IV. 退任監事

米倉 功 (前伊藤忠商事株式会社特別顧問)

第6号議案 任期満了等に伴う理事・監事選任承認の件

御巫専務理事が、任期満了等に伴う理事・監事選任承認の件に基づき、現理事・監事の再任候補、新任理事、退任及び後任者の推薦について説明、議長がこれを議場に諮ったところ全員異議なく承認された。

なお、理事・監事候補者及び退任理事は次の通り。

(敬称略・順不同)

I. 理事候補者

- (再任) 瀬戸雄三 (アサヒビール株式会社相談役)
- (再任) 渡里杉一郎 (株式会社東芝相談役)
- (再任) 前田勝之助 (東レ株式会社会長)
- (再任) 秋山富一 (住友商事株式会社相談役)
- (再任) 鈴木政志 (野村證券株式会社常任顧問)
- (再任) 張富士夫 (トヨタ自動車株式会社社長)
- (再任) 荒木浩 (東京電力株式会社顧問)
- (再任) 佐々木幹夫 (三菱商事株式会社会長)
- (再任) 麻生泰 (麻生セメント株式会社社長)
- (再任) 山口信夫 (旭化成株式会社会長)
- (再任) 松本明久 (伊藤忠商事株式会社常務執行役員)
- (再任) 石原進 (九州旅客鉄道株式会社社長)
- (再任) 杉町壽孝 (セコム株式会社会長)
- (再任) 平島治 (大成建設株式会社会長)
- (再任) 遠藤一郎 (日鉱金属株式会社顧問)
- (再任) 小原敏人 (日本ガイシ株式会社相談役)
- (再任) 篠原巖 (日本電気株式会社顧問)
- (再任) 東海林隆 (株式会社博報堂DYホールディングス会長)
- (再任) 高捷雄 (丸紅株式会社副社長)
- (再任) 永田宏 (三井物産株式会社代表取締役)
- (再任) 和田龍幸 (社団法人日本経済団体連合会事務総長)
- (再任) 篠原徹 (日本商工会議所常務理事)
- (再任) 渡辺正太郎 (社団法人経済同友会副代表幹事・専務理事)
- (再任) 藤本明夫 (社団法人関西経済連合会専務理事)
- (再任) 成田洋助 (財団法人日韓産業技術協力財団専務理事・事務局長)
- (再任) 下出道雄 (社団法人日韓経済協会常務理事・調査部長)
- (新任) 中尾勲 (石川島播磨重工業株式会社取締役常務執行役員)

- (新任) 田中昭洋 (ウシオ電機株式会社社長)
(新任) 上田勝弘 (大垣精工株式会社代表取締役)
(新任) 千速晃 (新日本製鐵株式会社会長)
(新任) 香西昭夫 (住友化学工業株式会社会長)
(新任) 鮫島章男 (太平洋セメント株式会社社長)
(新任) 田原龍二 (月島機械株式会社社長)
(新任) 西村英俊 (ニチメン・日商岩井ホールディングス株式会社社長)
(新任) 小林陽太郎 (富士ゼロックス株式会社会長)
(新任) 清水紘一郎 (株式会社ホテルオークラ東京取締役営業本部長)
(新任) 平木健二郎 (社団法人日韓経済協会専務理事付)

II. 監事候補者

- (再任) 西川章 (三菱マテリアル株式会社社長)
(再任) 高梨圭介 (社団法人日本貿易会専務理事)

III. 退任理事

- 金谷一男 (石川島播磨重工業株式会社取締役常務執行役員)
牛尾治朗 (ウシオ電機株式会社会長)
亀井俊郎 (川崎重工業株式会社特別顧問)〔ご逝去〕
村一輔 (太平洋セメント株式会社相談役)
安武史郎 (元日商岩井株式会社特別顧問)
米谷雅彦 (前株式会社ホテルオークラ東京社長)
御巫清美 (社団法人日韓経済協会専務理事)

議案第7号 定款変更承認の件

御巫専務理事が、定款変更承認の件に基づき、変更部分とその理由につき説明、議長がこれを議場に諮ったところ全員異議なく承認された。

6. 報告事項

(1) 任期満了等に伴う顧問委嘱の件

平成16年度第1回理事会の推薦により、会長が委嘱した顧問について御巫専務理事より報告があった。

また、任期満了に伴い、藤村正哉名誉会長(協会相談役就任)、西村和義参与が退任される旨、併せて報告された。

なお、顧問候補者及び退任顧問は次の通り。

(敬称略・順不同)

I. 顧問候補者

(再任)	奥田 碩	(社団法人日本経済団体連合会会長)
(再任)	山口 信夫	(日本商工会議所会頭)
(再任)	北城 恪太郎	(社団法人経済同友会代表幹事)
(再任)	秋山 喜久	(社団法人関西経済連合会会長)
(再任)	渡辺 修	(日本貿易振興機構理事長)
(再任)	篠沢 恭助	(国際協力銀行総裁)
(新任)	佐々木 幹夫	(社団法人日本貿易会会長)

II. 退任顧問

宮原 賢次 (前社団法人日本貿易会会長)

(2) 新規加入会員の件

御巫専務理事より、新規加入会員の件につき、第19回通常会員総会以降に開催した理事会において新規加入が承認された会員について報告があり、加えて今後も会員勧誘に協力頂きたい旨を付言された。

(3) 第36回日韓・韓日経済人会議の件

御巫専務理事より、会議次第及び議題並びに共同声明に基づき報告があった。

(4) 次回経済人会議の件

御巫専務理事より、次回経済人会議については、韓国での開催であるが、開催日程・場所については、現在、韓日経済協会で検討中である旨を報告された。

(5) その他

御巫専務理事よりイ. 相談役委嘱の件、ロ. 事務所移転の件、ハ. 高校生交流事業に対する費用負担のお願いについて各々説明された。

Ⅱ. 理 事 会

A. 平成16年度第1回理事会

1. 日 時 平成16年5月26日(水) 午後2時～午後3時20分
2. 場 所 社団法人日韓経済協会 会議室
3. 議 案

議案1 第20回通常会員総会開催の件

議案2 第20回通常会員総会付議事項承認の件

- ①平成15年度事業報告
- ②平成15年度収支決算報告
- ③平成16年度事業計画(案)
- ④平成16年度収支予算(案)
- ⑤理事・監事選任承認の件
- ⑥任期満了等に伴う理事・監事選任承認の件
- ⑦定款変更承認の件

議案3 理事会承認(総会報告)事項

- ①任期満了等に伴う顧問推薦の件
- ②新規加入会員承認の件

議案4 その他

- ①相談役委嘱の件
- ②事務所移転の件
- ③高校生交流事業に対する費用負担のお願いについて。

B. 平成16年度第2回理事会

1. 日 時 平成16年6月2日(水) 午後3時20分～午後3時30分
2. 場 所 経団連会館 902号室
3. 議 案

議案1 会長、副会長、専務理事、常務理事互選の件(敬称略・順不同)

I. 会長候補者

瀬戸 雄 三 (アサヒビール株式会社相談役)

II. 副会長候補者

渡里 杉一郎 (株式会社東芝相談役)

前田 勝之助 (東レ株式会社会長)

秋山 富一 (住友商事株式会社相談役)

鈴木 政志 (野村證券株式会社常任顧問)

張 富士夫 (トヨタ自動車株式会社社長)

荒 木 浩 (東京電力株式会社顧問)

佐々木 幹 夫 (三菱商事株式会社社長)

Ⅲ. 専務理事候補者

平 木 健 二 郎 (社団法人日韓経済協会理事)

Ⅳ. 常務理事候補者

下 出 道 雄 (社団法人日韓経済協会常務理事・調査部長)

議案2 事務局長委嘱の件

C. 平成16年度第3回理事会

1. 日 時 平成16年9月3日(金) 午前10時~午前10時30分

2. 場 所 社団法人日韓経済協会 会議室

3. 議 案

議案1 理事選任承認の件(敬称略)

理事候補者 田 崎 雅 元 川崎重工業株式会社代表取締役社長

蛭 田 史 郎 旭化成株式会社代表取締役社長

退任理事 山 口 信 夫 旭化成株式会社代表取締役会長

議案2 副会長増員の件(敬称略)

副会長候補者 蛭 田 史 郎 旭化成株式会社代表取締役社長

麻 生 泰 麻生セメント株式会社代表取締役社長

田 崎 雅 元 川崎重工業株式会社代表取締役社長

石 原 進 九州旅客鉄道株式会社代表取締役社長

香 西 昭 夫 住友化学工業株式会社相談役

鮫 島 章 男 太平洋セメント株式会社代表取締役社長

議案3 新規加入会員承認の件

D. 平成16年度第4回理事会

1. 日 時 平成17年3月30日(水) 午後3時~午後4時30分

2. 場 所 社団法人日韓経済協会 会議室

3. 議 案

議案1 平成17年度事業方針案骨子承認の件

議案2 平成17年度予算執行計画案承認の件

議案3 理事選任承認の件(敬称略)

理事候補者 矢 野 薫 日本電気株式会社代表取締役副社長

退任理事 篠 原 巖 日本電気株式会社顧問(ご逝去)

鈴 木 政 志 野村證券株式会社常任顧問

議案4 新規加入会員承認の件

Ⅲ. 政 策 委 員 会

平成2年度に設置された、協会の会長、副会長、専門委員会委員長、関係経済団体の常勤役員等で構成する政策委員会は、本年度は1回開催し、瀬戸雄三会長を議長として次の議題を審議した。

A. 平成16年度第1回政策委員会

1. 日 時 平成17年2月25日(金) 午後15時30分～17時
2. 場 所 経団連会館 901号室
3. 議 案
 - (1) 協会の現状報告と今後の方針説明
 - (2) 第36回日韓・韓日経済人会議概要
 - (3) 韓国情勢について(報告)

IV. 日韓・韓日経済人会議

A. 第36回 日韓・韓日経済人会議

第36回 日韓・韓日経済人会議は、4月22日、23日の二日間、名古屋市において、韓国側からは金相廈団長など112名、日本側からは瀬戸雄三団長など101名、並びに名古屋市の企業家33名が出席して開催された。

この会議は、日韓両国の民間経済界を代表する企業及び経済団体の代表者が一堂に会して、相互に意見を交換し交流と親睦を深めているもので、1969年以来毎年1回、日本と韓国とを交互に主催地として、民間合同経済委員会という名称で開催されてきた。1998年の第30回会議から名称が経済人会議に変更された。

4月22日の開会式では両側団長挨拶に続き、神田真秋・愛知県知事、羅鍾一（ラ・ジョンイル）駐日大韓民国特命全権大使、因田義男・名古屋市助役の来賓祝辞、金在哲（キム・ジェ Chol）韓国貿易協会会長及び渡辺修・日本貿易振興機構理事長の顧問挨拶があった。

次いで全体会議〔I〕で一般経過報告（書面）、産業貿易会議報告、中堅経済人交流ミッション報告、中堅中小企業委員会報告があった。

全体会議〔II〕では、日韓両国から1つずつの主題発表に続いて地元から2005愛知EXPOについての発表があった。

次に基調講演が行われた。日本側は奥田碩・日本経済団体連合会会長で演題は「日韓による新しい協力関係の構築に向けて」。韓国側は姜信浩（カン・シノ）全国経済人联合会会長で演題は「東アジアの域内協力と韓日関係の発展方向」。

初日の会議が終了した後、日韓・韓日両経済協会と名古屋地域（愛知県・名古屋市・名古屋商工会議所・中部経済連合会）共催レセプションが催された。

23日の会議では、午前中に、第1分科会（テーマ：日韓産業空洞化対策）と第2分科会（テーマ：日韓両国中小企業活性化対策）を並行して行い、主題発表後、フロアから自由発言方式によって意見を交換した。午後は閉会式後、希望者がトヨタ自動車工場を見学した。

会 議 次 第

〔2004年4月22日（木）〕

14：30～15：20	開会式 名古屋東急ホテル	3F “ルネッサンス”
(1)両側団長挨拶	日 本 側： 瀬戸 雄三 団長 韓 国 側： 金 相 廈 団長	
(2)来賓・顧問挨拶	日本側来賓： 神田 真秋・愛知県知事 韓国側来賓： 羅 鍾 一・駐日大韓民国特命全権大使 日本側来賓： 因田 義男・名古屋市助役 韓国側顧問： 金 在 哲（キム・ジェ Chol）韓国貿易協会会長 日本側顧問： 渡辺 修・日本貿易振興機構理事長	
15：25～15：45	<全体会議〔I〕報告>	3F “ルネッサンス”
(1)一般経過報告	（書 面）	
(2)各委員会報告	①産業貿易会議 安武 史郎・双日(株)顧問 ②中堅経済人交流促進ミッション 麻生 泰・麻生セメント(株)社長 ③中堅中小企業委員会 田勢 修也・全国中小企業団体中央会専務理事	
15：45～16：45	<全体会議〔II〕発表>	3F “ルネッサンス”
日本側主題発表	「日韓関係の展望」 小倉 和夫・国際交流基金理事長	
韓国側主題発表	「革新主導型産業政策と韓日経済交流」 朴 鳳 圭（パク・ポンギョ）産業資源部次官補	
開催地元発表	「愛・地球博 創造と挑戦」 坂本 春生・(財)2005年日本国際博覧会協会副会長	
17：00～18：00	<基調講演>	3F “ルネッサンス”
(1) 日本側	「日韓による新しい協力関係の構築に向けて」 奥田 碩・日本経済団体連合会会長	
(2) 韓国側	「東アジアの域内協力と韓日関係の発展方向」 姜 信 浩（カン・シノ）全国経済人联合会会長	
19：00～21：00	<レセプション>	
	日韓・韓日両経済協会及び名古屋地域共同主催 (愛知県・名古屋市・名古屋商工会議所・中部経済連合会)	

〔2002年4月23日（金）〕

09：00～11：20	<分科会>	
第1分科会	テーマ：「日韓両国の産業空洞化対策」	3F “バロック”
(1)	コーディネーターによる分科会進行要領説明 日本側：麻生 泰・麻生セメント㈱社長 韓国側：李 洙 喆（イ・スチョル）三星物産㈱副社長	
(2)	主題発表	
	日本側主題	「商工会議所における産業空洞化問題への取り組み」 篠原 徹・日本商工会議所常務理事
	韓国側主題	「製造業空洞化現況及び評価」 河 炳 基（ハ・ビョンギ）韓国産業研究院産業競争力室 室長
(3)	自由討論	
(4)	両国コーディネーター総括	

第2分科会	テーマ：「日韓両国の中小企業活性化対策」	3F “ロマネスク”
(3)	コーディネーターによる分科会進行要領説明 日本側：安武 史郎・双日㈱特別顧問 韓国側：李 尹 ？（イ・ユンホ）韓国中小企業学会会長	
(4)	主題発表	
	日本側主題	「韓国中小企業との交流体験」 上田 勝弘・大垣精工㈱社長
	韓国側主題	「韓日FTAと中小企業活性化対策」 金 学 権（キム・ハクォン）ソルテック㈱社長
(3)	自由討論	
(4)	両国コーディネーター総括	

11：30～13：00	<昼食会>	
	団長・副団長・顧問・コーディネーター（共同声明案審議）	4F “栄”
	一般団員	4F “雅”

13:00~13:20	<閉会式>	3F “ルネッサンス”
(1) 分科会コーディネーター報告		
1) 第1分科会	麻生 泰	コーディネーター
2) 第2分科会	安武 史郎	コーディネーター
(2) 共同声明採択	御巫 清美?	日韓経済協会専務理事
(2) 両国団長挨拶	日本側: 瀬戸 雄三	団長
	韓国側: 金 相 廈	団長

13:20~13:50	<共同記者会見>	3F “バロック”
-------------	----------	-----------

(注) 時間は当初の予定による。

共 同 声 明

第36回 日韓・韓日経済人会議は2004年4月22日、23日の二日間、日本国名古屋市において、韓国側からは金相廈団長など112名、日本側からは瀬戸雄三団長など101名、並びに名古屋市の企業家33名が出席して開催された。

1. 全体会議では、書面による一般経過報告、第5回日韓産業貿易会議及びその他会議の活動状況に関する報告があった。
 - (1) 第5回 日韓・韓日産業貿易会議 (2003年11月、日本浦安市)
 - (2) 第14回 日韓・韓日中堅経済人交流ミッション (2003年9月、ソウル)
 - … (同交流ミッションは2003年会議を以って解散する)
 - (3) 日韓・韓日中堅中小企業委員会会議
 - … (同会議は2003年の実務協議を以って解散する)
2. まず、基調講演などを通じ両国経済人は両国経済及び両国関係について次のように認識をともにした。

世界経済は米国経済が回復傾向を見せ始め、中国経済も引き続き好調を維持している。このように日韓両国を取り巻く経済環境は従来にも増して好転している。

日本経済は、長期に亘る不況のトンネルから抜け出し始め、輸出と設備投資に加え

て個人消費も持ち直すなど、漸く本格的な回復基調を迎えている。

韓国経済は昨年輸出と内需、業種及び企業間の二極化などにより厳しい1年であったが、最近では輸出の好調を背景に漸進的な回復の兆しを示している。

一方、最近の日韓経済関係は、グローバル次元での相互提携が更に緊密になっている。同時に東アジア地域では貿易と投資自由化・円滑化はもとより経済統合に向けた努力が継続されている。

こうした流れの中で両国経済人は高い水準の連携を目標とする日韓F T A締結実現の重要性を十分に認識し、共生のための戦略的提携を更に強化することが不可欠である。このためには両国企業の相互補完関係構築と若い世代の人的交流の拡充がそのいかなる時よりも重要だということを確認を共にした。

3. 各分科会、全体会議における意見発表と討論を通じ、両国経済人は次の事項について意見の一致をみた。

(1) 両国経済人は、日韓F T Aの締結を念頭に置きながら、両国中小企業の活性化方策について引き続き検討することは極めて意義あることである。特に、従来より培われてきた相互友好信頼関係を強固にし、未来志向的に取り組むことが望ましいことを確認した。

(2) 日韓両国は中国経済の台頭を受け、対中国依存度が深化し、一部の産業において産業の空洞化現象がみられることを指摘した。これに対し両国経済人は相互に多様な対応過程に関する現状と課題を検討し、両国の規制改革などによる企業及び投資環境の改善、技術革新及び高付加価値化による競争力向上、企業自身の体力涵養などが重要であるということを確認した。

(3) 両国経済人は、相互直接投資の環境整備と拡充、貿易の拡大均衡、重層的な人と文化の交流増進の重要性を認識しながら、更に緊密化の度合いを深めていかなければならないということを確認した。

(4) 日本側から日韓パートナーシップ強化のための提言、韓国側から革新主導型産業政策と韓日経済協力に関する説明、2005年日本国際博覧会協会から国際博覧会「愛・地球博」について報告があり、両国経済人はこれらに対し高い関心を表明した。

4. 各分科会及び全体会議における提案などに関し別添事項に合意した。

5. 次の会議は来年韓国で開催する。

2004年 4月 23日

日本側代表団 団長 瀬戸 雄三

韓国側代表団 団長 金 相 廈

<別 添>

合 意 事 項

- (1) 「産業貿易会議」開催に協力する件
- (2) 「訪日輸出促進団」派遣とその受入れに協力する件
- (3) 両国「産業技術協力財団」事業に協力する件
- (4) 「青少年交流事業」として、日韓両国の大学生を相互に派遣しその受入れに協力する件、及び日韓高校生交流について協力する件
- (5) 中小企業の相互補完事業について協力する件
- (6) その他、日韓・韓日両協会の合意の下に推進する事業に協力する件

以 上

B. 専門委員会

第6回 日韓・韓日 産業貿易会議

本会議は、1998年度まで実施していた3つの専門委員会、即ち「貿易投資委員会」（76年から25回）、「機械工業委員会」（77年から24回）、「産業一般委員会」（91年から4回）を1つに統合し、より高い次元での認識の共有と合意の形成を目指して、情報と意見交換を一元化し、99年度から新たに発足させたものである。

その意味において、言わば「春の総会」である両国合同の経済人会議の重要な「秋のフォローアップ」として位置付けられる一番重要な専門委員会である。また、少人数による自由討議が出来る唯一貴重な場として、翌年度経済人会議のテーマに向けての意見交換など、今後ますます存在意義を高めていくものと期待されている。

2004年度は一元化後、第6回を迎え以下のとおり2日間にわたって、両国の経済人にとって時宜を得た、かつ関心の高いテーマに絞り、2つのセッションが設定された。席上、参加委員のフリーな立場を担保（オフレコ）にした意見交換、情報交換が予定時間を超過し熱心に行われた。概要は以下の通り。

(1) 日時・場所：2004年11月18日（木）・19日（金）

大韓民国慶州市「Hotel Hyundai」

(2) 出席者：日本側 麻生泰チェアマン（麻生ラファージュセメント(株)社長）
高梨圭介コーディネーター（(社)日本貿易会専務理事）
はじめ31名

韓国側 李錫瑛チェアマン（(社)韓国貿易協会常勤副会長）
李洙喆コーディネーター（三星物産(株)副社長）
はじめ45名

(3) テーマ：日韓 FTA

(4) 議 事：

<主要分野別 自由討論>

①貿易分野テーマ

・進行：金都亭 啓明大学 国際学日本学科教授

②機械分野

・進行：朴良雨 韓国機械産業振興会 副会長

③電気・電子・IT分野

- ・進行：李鑑烈 韓国電子産業振興会 副会長

<本会議>

①主題発表：

- ・日本側：「日韓 FTA－真の partnership 構築と東アジア自由貿易圏を
目指して－」

角田博・(社)日本経済団体連合会 参与

- ・韓国側：「韓日 FTA の推進方策と企業の対応課題」

鄭宰和・韓国貿易協会 貿易研究所 FTA 研究チーム長

②自由討議

V. その他主要事業活動

A. 調査広報活動

1. 資料、情報の提供

(1) 定期刊行物

① 『協会報』(月刊)

韓国の刊行物・雑誌・新聞・中央官庁及び韓国銀行のホームページ等をニュースソースとして、経済記事を中心に翻訳・編集の上、384号(04年4月号)から394号(05年3月号)まで11冊を発行し、会員会社・団体等に配付した。

特に、2004年度は、盧武鉉政権2年目に入り、国会による盧武鉉大統領の弾劾議決、憲法裁判所による弾劾棄却、「新行政首都建設法」の違憲決定、チリとのFTA発効といった時代の流れを踏まえながら、2002年末頃から低迷し始めた韓国経済の動向等を取り纏めた。盧武鉉政権の経済政策、労使紛争(夏闘)問題、長期不況問題等を掲載した。

また、輸出の好調と内需の低迷という経済の二極化現象、ウォン高・ドル安問題、失業率の悪化(特に若年層失業者の増加)問題、FTA(日韓FTA、韓国・チリFTA)問題を可能な限り掲載することに努めた。

在韓日本人ビジネスマンによる“ハローソウル”と“最近の金融・企業動向”は継続連載した。更に『協会報』の性格上、マクロ経済指標を中心とする資料面の充実にも注力した。

従来同様、会長・副会長会社及び支援団体の実務者より構成された編集委員会を毎月開催し、内容の充実を図るべく検討した。

各号の主要内容は別紙の通りである。

② 『日韓経済協会通信』(週刊)

韓国の主要経済紙・日刊紙・中央官庁及び韓国銀行のホームページ等の翻訳による速報記事を中心として『週刊 日韓経済協会通信』のタイトルのもと、Eメール送信(一部ファクシミリ送信)による週刊発行(毎週金曜日発行)を行い、第651号から第694号までの44号を発行した。

また、当該週に調査部が翻訳した資料のうち、未掲載のタイトル一覧を本通信に掲載し、会員からの要望に応じてEメール送信(一部ファクシミリ送信)するサービスを行なっているが、個別提供サービスとして好評を博し、多数利用されている。

(2) 別冊資料発行

- ① J K E 調査レポート『統計で見た世界の中の韓国』
…………… (2004年9月)
- ② J K E 調査レポート『統計で見る南北朝鮮の姿』
…………… (2005年1月)

2. 会員懇話会の開催

会員各社の関係者を対象として、韓国事情に関する講演、講師を交えた懇談、情報交換及び会員相互の交流を目的として、本年度は下記の内容で2回開催した。参加者は毎回30名前後。場所は協会会議室。

第86回

月 日：2004年10月25日（月）

講 師：矢野 雅英氏 {三菱商事(株)執行役員・繊維本部長（前韓国三菱商事(株)社長、元S J C理事長)}

テーマ：「韓国雑感」

第87回

月 日：2005年 3月 1日（火）

講 師：深川 由紀子氏（東京大学大学院総合研究科・教養学部教授）

テーマ：「閉塞感強まる韓国経済：FTAは突破口になれるか」

3. 経済関係資料の整備

従来に引き続き、経済を中心とした韓国関係資料の収集・整備に努めたが、平成16年度においては、下記の点に留意した。

- (1) 韓国の経済統計関連資料の入手に努めた。
- (2) 対外経済政策研究院（K I E P）、韓国産業研究院（K I E T）、大韓石油協会との資料交換を行ない関連資料の幅を広げた。
- (3) 出張の機会を捉え「Economy 2 1」「週刊東亜」等の雑誌を入手し、経済記事の幅を広げることに努めた。

B. ミッションの受け入れ・派遣及びその協力

1. 第2回中小企業相互補完商談会

(1) 日時・場所

2004年5月24、25日 日本 東京

(2) 参加者

日本側：46社 韓国側：20社

2. 第3回中小企業相互補完商談会

(1) 日時・場所

2004年11月1、2日 韓国 ソウル

(2) 参加者

日本側：12社 韓国側：60社

参加企業は意欲的に商談を実施し、参加企業からは高い評価を受ける。

C. 特別事業（青少年交流事業）

1. 大学生交流事業

日韓国交正常化20周年を記念し1985年以降、日韓両国経済協会が夏休み期間を利用して共同主催している日韓青少年交流事業は、2004年8月上旬に韓国の大学生25名からなる第20回韓国大学生訪日団が日本を訪問し、日本からは同下旬に13名からなる第17回日本大学生訪韓団が韓国を訪れた。

両国の大学生らはそれぞれ5泊6日間の相手国滞在中、学生交流・文化産業施設見学及び相手国家庭へのホームステイなど様々な活動を通じて、隣国の産業・社会・文化に直接触れて幅広い相互理解と友好親善を増進することができた。

これで韓国からの訪日大学生の累計は803名、3年遅れて開始された日本からの訪韓大学生累計は446名、両国合わせて1,249名の参加実績となった。

過去20年に亘り実施してきた大学生交流事業も時代の大きな流れの中でその使命を終え、今回をもって最終回を迎えることとなった。今後は、より若い世代を中心とした新たな交流事業を展開することを目的に高校生交流事業に特化し、引続き関係各位のご指導・ご協力を頂戴しながら青少年交流を推進する所存である。

2. 高校生交流事業

20年間続けた大学生交流に替えて、やはり日韓両国経済協会が協力して更に若い世代の交流増進を目指し、日韓の高校生による交流事業を開始した。第1回は2004年1月東京にて韓国側50名、日本側62名の高校生を集めて「日韓高校生経済キャンプ」という合宿形式の交流会を実施した。

2004年度に入り、第2回キャンプを7月東京で開催し日韓の高校生72名が参加、第3回は8月ソウルにて開催し94名の参加を得た。さらに2005年2月再び東京にて第4回日韓高校生交流キャンプを開催し118名の高校生が参加した。

この交流キャンプでは、参加者が10人前後の日韓混成チームに分かれ、両国の観光・文化を売り込む企画をチーム毎に作成して発表する。この共同作業を通じて密度の濃い交流を促進することが本プログラムの狙いである。実質わずか2泊3日の交流期間だが、共通の課題に取り組み真剣な討議と作業を通じて親交を深めた結果、キャンプが終了

しても皆なかなか別れ難く、抱き合い涙する光景はいつもながら感動的である。このような草の根レベルの交流を通じて、将来の日韓関係を担う若者がお互いの偏見をなくして理解を深め合うことが出来た

なお、本キャンプは、両国政府関係当局の後援および様々な助成・支援を得て実現している。これらキャンプの様子は両国のマスメディアにも大きく取り上げられた。さらに2005年2月の第4回キャンプは両国政府が推進する「日韓友情年2005」記念事業に登録しており、このキャンプを参観した友情年実行委員の小倉紀蔵氏が友情年ホームページ上のコラム記事でこのキャンプの様子を紹介している。

VI. その他事業及び出来事等

1. 羅鍾一駐日大韓民国特命全権大使訪問

1. 日 時：平成 16 年 4 月 1 日（木）
2. 場 所：韓国大使館
3. 訪問者：瀬戸会長、御巫専務理事

2. 第 36 回経済人会議に先立つ表敬訪問

1. 日 時：平成 16 年 4 月 21 日（水）
2. 訪問先：小泉純一郎内閣総理大臣、中川昭一経済産業大臣、外務省・荒井正吾大臣政務官
3. 訪問者：(社)韓日経済協会会長・金相廈、大韓商工会議所会長・朴容晟、韓国貿易協会会長・金在哲、中小企業協同組合中央会会長・金容九、東洋物産企業(株)会長・金熙勇、(株)新韓金融持株会社会長・羅應燦、韓国 PANTLAND(株)会長・朴世英、大韓製糖(株)会長・薛元鳳、LG 石油化学(株)会長・成在甲、(株)SINDORICOH 会長・禹石亨、(株)POSCO 常勤顧問・劉常夫、(株)曉星会長・趙錫來、三煥企業(株)会長・崔用權、全国経済人連合会常勤副会長・玄明官、(社)韓日経済協会専務理事・韓元碩
4. 同席者：瀬戸雄三会長、御巫清美専務理事、平木健二郎専務理事付、羅鍾一駐日大韓民国特命全権大使

3. 日本経済団体連合会における経済人会議についての報告

1. 日 時：平成 16 年 5 月 12 日（水）
2. 場 所：経団連会館
3. 参加者：瀬戸会長

4. 日本貿易会会長交代披露パーティー

1. 日 時：平成 16 年 5 月 31 日（月）
2. 場 所：帝国ホテル
3. 参加者：平木専務理事付、下出常務理事

5. 事務所移転

1. 日 時：平成 16 年 6 月 26 日（土）～27 日（日）
2. 移転先：東京都千代田区一番町 8 番地

6. 故亀井俊郎副会長「お別れ会」

1. 日 時：平成16年7月14日（月）
2. 場 所：ホテルオークラ
3. 参列者：瀬戸会長、平木専務理事

7. 韓国経済団体トップ要人訪問・懇談

1. 日 時：平成16年8月18日（水）～19日（木）
2. 訪問先：全国経済連合会会長・姜信浩、韓国貿易協会会長・金在哲、
中央日報会長・洪錫炫、韓国中小企業庁長官・金成珍、韓日経済協会
会長・金相廈
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事

8. (財)日韓産業技術協力財団との合同懇談会

1. 日 時：平成16年8月31日（火）
2. 場 所：協会会議室
3. 参加者：瀬戸会長(理事長)以下協会財団全職員

9. 経済産業省・日下審議官訪問

1. 日 時：平成16年9月10日（金）
2. 場 所：経済産業省
3. 出席者：瀬戸会長、平木専務理事

10. 韓国建国記念日昼食会

1. 日 時：平成16年10月1日（金）
2. 場 所：ホテルニューオータニ
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事、下出常務理事

11. 故梅田善司氏（日韓経済協会元副会長、川崎重工業(株)元会長）「お別れ会」

1. 日 時：平成16年10月7日（木）
2. 場 所：帝国ホテル
3. 参列者：瀬戸会長、平木専務理事

12. 韓国記者団と懇談

1. 日 時：平成16年10月19日（火）
2. 場 所：アサヒビール(株)本社
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事

13. 第3回日韓中ビジネス・フォーラム

1. 日 時：平成16年10月21日（木）～22日（金）
2. 場 所：経団連会館
3. 参加者：瀬戸会長、平木専務理事

14. 経団連・全羅南道訪問団参加

1. 日 時：平成16年11月11日（木）～14日（日）
2. 参加者：下出常務理事

15. 外務省渋谷特命全権大使面会

1. 日 時：平成16年11月30日（火）
2. 場 所：アサヒビール(株)本社
3. 応接者：瀬戸会長、平木専務理事

16. 羅鍾一駐日韓国特命全権大使訪問

1. 日 時：平成16年12月2日（木）
2. 場 所：韓国大使館
3. 訪問者：瀬戸会長、平木専務理事

17. 第5回次世代オピニオンリーダー訪日団歓迎晩餐会

1. 日 時：平成16年12月8日（水）
2. 場 所：ホテルグランドパレス
3. 出席者：瀬戸会長、平木専務理事

18. ソウル放送の取材

1. 日 時：平成16年12月24日（金）
2. 場 所：アサヒビール(株)本社
3. 応接者：瀬戸会長、平木専務理事

19. 会長主催協会・財団年末懇談会

1. 日 時：平成16年12月28日（火）
2. 場 所：ダイヤモンドホテル
3. 参加者：瀬戸会長(理事長)他協会財団職員

20. 東洋経済日報社の取材

1. 日 時：平成 17 年 1 月 11 日（火）
2. 場 所：アサヒビール(株)本社
3. 応接者：瀬戸会長、平木専務理事

21. 会長副会長新春懇談会

1. 日 時：平成 17 年 1 月 17 日（月）
2. 場 所：交詢社ビル
3. 出席者：瀬戸会長他 11 名

22. 「韓日友情年 2005」開幕式／レセプション

1. 日 時：平成 17 年 1 月 25 日（火）
2. 場 所：代々木第 2 体育館／帝国ホテル
3. 出席者：瀬戸会長、平木専務理事

23. 韓国経済団体トップ・要人訪問懇談

1. 日 時：平成 17 年 1 月 26 日（水）～26 日（水）
2. 訪問先：(社)韓日経済協会会長・金相廈、大韓商工会議所会長・朴容晟、
韓国貿易協会会長・金在哲、全国経済連合会会長・姜信浩
3. 応接者：瀬戸会長、平木専務理事

24. S J C 役員との懇談昼食会

1. 日 時：平成 17 年 1 月 27 日（木）
2. 場 所：ソウル・ロッテホテル
3. 出席者：瀬戸会長、平木専務理事

25. 「日韓友情年 2005」開幕式／レセプション

1. 日 時：平成 17 年 1 月 27 日（木）
2. 場 所：ソウル・ロッテホテル
3. 出席者：瀬戸会長、平木専務理事

26. 羅鍾一駐日韓国特命全権大使主催懇談会

1. 日 時：平成 17 年 2 月 3 日（木）
2. 場 所：韓国大使公邸
3. 訪問者：瀬戸会長、渡里副会長、秋山副会長、鈴木副会長、荒木副会長、

香西副会長、鮫島副会長、石原副会長、藤村相談役、平木専務理事

27. 韓国投資ビジネスミッション

1. 日 時：平成 17 年 3 月 7 日（月）～ 9 日（水）
2. 場 所：ソウル・ロッテホテル
3. 参加者：平木専務理事

28. 韓国ジャーナリストとの懇談（経済広報センターの依頼）

1. 日 時：平成 17 年 3 月 15 日（火）
2. 場 所：アサヒビール(株)本社
3. 出席者：瀬戸会長、平木専務理事

29. 小泉総理大臣訪問

1. 日 時：平成 17 年 3 月 30 日（水）
2. 場 所：総理官邸
3. 訪問者：瀬戸会長

VII. 会 員 異 動

1. 入 会

(1) 正 会 員

会員名	代表者	入会年月日
大垣精工株式会社	代表取締役 上田勝弘	16. 4. 1
旭化成ライフ&リビング株式会社	代表取締役社長 能村義廣	16. 5. 28
北海道電力株式会社	取締役社長 近藤龍夫	16. 7. 6
株式会社丸順	取締役社長 今川喜章	16. 7. 6
株式会社銭高組	取締役専務役員 大野皓將	16. 10. 8
第一生命保険相互会社	代表取締役社長 齋藤勝利	16. 10. 15
液化炭酸株式会社	代表取締役 逸見 誠	16. 10. 15
株式会社みずほコーポレート銀行	取締役頭取 齋藤 宏	16. 11. 1
住商オートリース株式会社	取締役社長 加藤浩則	16. 11. 1
住友信託銀行株式会社	取締役社長 高橋 温	16. 11. 1
大和証券エスエムビーシー株式会社	代表取締役社長 齋藤辰栄	16. 11. 5
住友電設株式会社	取締役社長 塩谷 章	16. 11. 22
北海道経済連合会	会長 南山英雄	16. 12. 1
三井住友海上火災保険株式会社	代表取締役 井口武雄	16. 12. 1
清水建設株式会社	取締役社長 野村哲也	17. 1. 1
株式会社三井住友銀行	頭取 西川善文	17. 1. 1
テルモ株式会社	代表取締役会長兼最高経営責任者 和地 孝	17. 2. 1

(2) 協力会員

会員名	代表者	入会年月日
株式会社エイチ・ジェイ	代表取締役 劉 信一	16. 10. 3
湘南香料株式会社	代表取締役社長 大崎桂介	16. 10. 18

2. 退 会

(1) 正 会 員

会員名	退会年月日
三菱倉庫株式会社	16. 4. 1
日立造船株式会社	16. 9. 30

(2) 協力会員

住友信託銀行株式会社	16. 9. 30
株式会社野村総合研究所	17. 3. 31
日本通運株式会社	17. 3. 31

3. 平成 17 年 3 月 31 日現在

正会員数	1 0 7 社
協力会員数	1 5 社

以上